

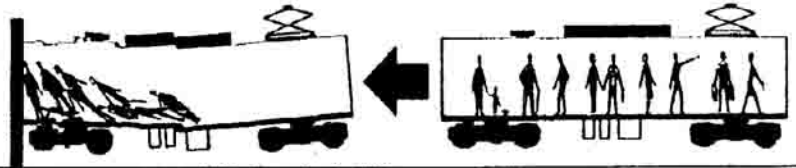
ARAI NEWS

内装ライナーは、頑丈な帽体と吸収力の大きなライナーの組み合わせで頭を守ります。この図は、●皮膚●頭蓋骨●脳に分かれますが、ダメージの危険度は●→●→●の順に高くなります。

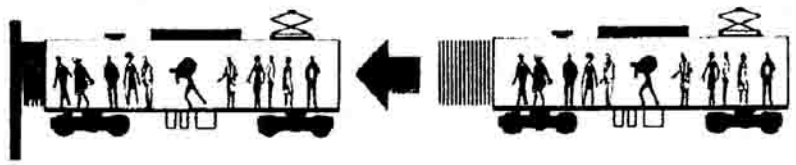
それではこのヘルメットがどのようにして頭を守るのか、頭蓋骨を電車に、脳を乗客に例えて考えてみましょう。

電車が激しく壁に激突したとします。電車(頭蓋骨)は、そこで瞬間的に停止します。しかし乗客(脳細胞)は、慣性の法則によってなおも運動を続けようとするので、符號倒し

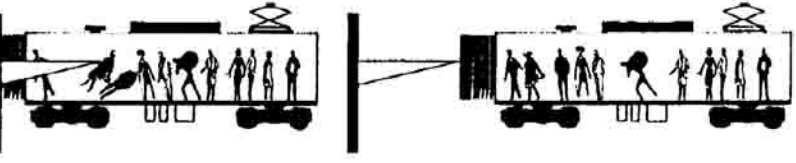
になり次々と押し潰されてしまいます。たとえ電車(頭蓋骨)が壊れなくとも乗客(脳細胞)の方は大きなダメージを受けます。



しかし、電車の前面に厚いクッションがあれば、ぶつかった衝撃はこのクッションに吸収され電車は時間をかけて止まります。ゆっくり止まることで、乗客が符號倒しになるのを防げる訳です。このクッションに相当するのがヘルメットのライナー(緩衝体)の役目です。



ところが、ぶつかる部分が壁のような平面ではなく、尖っているものだと、単に柔らかいクッションだけでは、そのまま電車に突き刺さってクッションは働くこともできません。そこで前面に丈夫な板をつけ、衝撃は分散され、平面の壁にぶつかるようにクッションが働きます。この丈夫な板に該当するのが、ヘルメットの帽体です。



このように頭は、障害物に直接当たるのではなく、帽体により大きな面積へと分散された力を受け止めるライナーへぶつかることとなります。生身の頭が直接ぶつかるライナーは、吸収力の高い柔らかいものが望ましいわけです。しかし、ライナーを柔らかくするには、重量面では不利な頑丈な帽体が必要になります。規格試験では、生身の頭ではなく、マグネシウム製の人頭型を使用するので、同じ規格のものでも、●比較的柔らかなライナー+頑丈な帽体。●硬いライナー+やわらかな帽体という正反対の組み合わせのどちらでも通ってしまうことがあります。頭に優しいのはもちろん●の組み合わせです。自分の大切な頭を

守るのだから、同じ規格表示でならば、必ず●の組み合わせを選んでいただきたいものです。

とはいえ、ライナーの硬さや帽体の頑丈さは、目で見たり、手にとっても分からないものです。そこでそれを見極めるポイントを2つお教えします。

①ライナーを潰してしまえば、ヘルメットの機能を損なってしまいますが、天井部のスチロールを少し指で押して、その感覚を確かめてみて下さい。指を立てて押し潰すのではなく、柔らかさを指の平で感じ取ってみるのです。

②もう一つ、必ず行っていただきたいのは、

規格外でありながら、打つ事例が、決して少なくない後頭部のヘリ部分まで、しっかりライナーの厚みがあるかどうかを確認していただくことです。ヘルメットは、帽体とライナーの組み合わせにより、頭を保護するものですから、どちらが欠けてもその機能は発揮できません。柔らかさ以前にその厚みだけはしっかりつかんで確認してください。

大切な頭を守るのですから、自分で確認できることは、しっかり確かめてください。同じ規格表示でも、一般的な製品よりも20%程、柔らかいライナーを使用しているアライだからこそ、自信を持ってお薦めできるのです。



ライナーの重要性と選び方

(株)アライヘルメット
 〒330 埼玉県大宮市東町2-12
 TEL(048)641-3825~7



●アフターサービス窓口は品質管理課です
 製品の専ら、お気軽にご相談ください
 直通 TEL(048)645-3961